

セミナー

産業文化力が拓く ⑥

ポップカルチャーは国際政治面でも注目されている。国家イメージの向上や日本文化への理解の増進に役立つと期待されているからだ。国際政治学者ジョセフ・ナイ氏の提唱する「ソフトパワー」論がこれを後押ししている。

軍事力と経済力を源泉とする「強制力」を「ハードパワー」という。これに対し「ソフトパワー」は文化、宗教、哲学、政治などの「魅力」によって欲するものを得る力という。国際政治は流動し、戦争やテロの危機が去らない。市民が政策決定に関与する度合いが高まり、他国民を魅了する力が外交上も重視されつつある。インターネットの普及により、情報戦略もますます重要となっている。ソフトパワーは、こうした背景から議論の高まりをみせている。

ソフトパワーの要素の例

価値観	宗教
	哲学
	政治理念
知性・知識	学問(大学・研究機関)
	技術
感情・情緒	芸術
	文化
	エンタテインメント産業

ただでなくソフトパワーも強いと認識されている。映画や文学、音楽などの文化、大学や研究機関の存在、宗教や哲学に支えられた伝統や公共心、政治理念といったものから形成される総合力がある。これに対し、日本は言論の発信力が小さく、国際レベルの大学も少ない。高度な科学技術や自然との共生思想などが存在しながら、いまひとつ世界的な訴求力に欠ける。しかし、ポップカルチャーはこ

ポップカルチャー 日本のソフトパワーの源泉

の弱みを補完する。日本ファンを増やす最強の手段だからだ。「ポップカルチャーは企業ブランドの存在、平和外交等と並ぶ日本のソフトパワーの源泉である」(ナイ氏)。

それが明確な即効力を発揮しにくいことは否めない。学問・技術のように知性に訴えるものや、宗教・イデオロギーのように価値体系にかかわるものと異なり、文化芸術は感性に訴えるからだ。長期的に力を発揮することは間違いないだろう。日本のポップカルチャーには西洋と東洋を融合する無国籍性が漂い、一神教的なドグマ性も薄い。こうした「あやふやな」性質がかえって強みとなるのだ。

現在日本が優位性をもつ数少ない資源であることは間違いない。ポップカルチャーは政府の管理下にはないが、デジタル技術を活用し対外的に力を発揮していくことが政策課題になりつつある。(スタンフォード日本センター)